

LEON- TODO

N-ro (23) 24



Januario

1960

Enfravo

考へさせられたこと	西里 静彦	2
La Simetria Mondo	Nagata Akiko	5
La "Sento" pri La "Kongreso" k.t.p.	Jacūi Sugijama	7
Moralo de La amo	Noboru Hajakaūa	8
Respondoj de enketo (sep gesamideoj)		9
くずれ落ちる抱負	西里 静彦	15
Oficiala protokolo de la 23a Hokkaido Esp. Kongreso		19
第 23 回北海道大会参加者名簿		32
第 23 回大会会計報告		33
HEL 役員一覧		34
HEL 会計報告		35
雑 記		36

考えさせられたこと

ウースター夫人来訪の折に

近 里 静 彦

3月31日、ウースター夫人が空路来札してから、その日の午後、4月2日、そして3日夫人が札幌を離れるまで夫人に同行し、エスペラントの勉強にはまたない新しい機会をもつことが出来ました。夫人が元気に札幌を離れたときには、私は全く身心ともに疲れ果ててしまったという感じでした。それ程、私にとっては緊張した日々だったので、その間の若い経験などを思い返しながら、ここに考えさせられたことと題して私の所感を推記的に綴りたいと思います。

31日の午後、北海道新聞社を訪れたときのこと、日本と外国とのエスペラント運動の比較及び情況についてという記者の質問に對して、夫人は次の様なことを云っており、
「外国の会合では、会合中はエスペラントだけを用います。以前私が日本を訪れたときは、まだ会合中、日本語が多く話されていましたが、現在ではエスペラントが多く話される様になって来ています。日本は外国に劣らず運動が盛んです」
たしかに、夫人が日本に於て出席した会合では、エスペラントを多く話していたことでしょう。それに比べて、私達日本人だけの会合ではどうでしょうか。昨年来札したシンプキンス氏は、私達が会合のときエスペラントをあまり使わないことに遺憾がございました。会話の練習は、いつでも出来るということからか、会合の貴重な時間の時間割に組まれることが少なく、そうかと云って2人集まれば、いつでも会話の練習をするかという、そうでもないというのが現状でありましょう。会話の練習不足ということは、外人と話をするとき痛切に感ずることです。

練習不足ということに関連して31日、現さんの席上、山崎先生が私達は機会(okazo)に恵まれていないということ云われたとき、夫人は「外人と接する機会が少いということですが、あなた方同志の間でも会話の練習が出来ないのでないですか」と語っておりました。私も夫人の云われるように、日本人同志の練習でも充分会話の上達を望み得ると思っております。会話の練習ということは、耳から入った言葉が直ちに大脳に於て意味を獲得するという一種の反射過程の形成をもたらすもので、その音声から意味への符号変換の敏捷性は、会話の場合もつとも重要なことで、その獲得は、とにかく外人であれ、日本人であれ、話し相手をもつことによって効果的になさ

れ得ると考えるのです。この一種の反射過程が既に成立している日本語の場合、私達は唯話しをするだけでは、或いは話しを聞くだけでは、それ程緊張感も覚え、疲れもせず、頭痛を覚えることもありませんが、エスペラントの場合はどうでしょう。同夜、夫人が心霊現象について話されたとき、それを首で相槌いながら通訳したのですが、話しを聞きとるのに非常に緊張感を覚え、終始聞きとることに気をとられているのが、夫人の話が少し長くなると、冥におどろく程夫人の話したことを記憶していません。勿論、はじめから聞きとれなかつた部分も多くありましたが、兎に角、聞きとれても忘れてしまうということが非常に多かつたのです。

これは一種の逆方向抑制という現象で、後の聞きとりにくいコトバが、前に聞いたコトバの記憶を妨げるのです。

そこで聞きとりにくいのは、(例えば)ワースター夫人の発音か発音法だから、というようなことは、この際大した理由にはならないでしょう。イギリス人、アメリカ人、インド人、フランス人、ドイツ人の話す英語には、それぞれくせ(特有の発音)があり、日本人が学校で習ってくる英語とはかなり異なるものですが、話していると程なく相手のくせをのみこむことが出来るというのが普通です。エスペラントについてもこの点は同様でしょう。それは、理由は何かといえは、結局それは単語に慣れていないという練習不足ですが、これをエスペラント特有の問題として考えてみましょう。

エスペラントの場合、他のコトバと違って自由に造語できるという特徴があります。これは、造語の規則を覚えていれば、比較的少数の語根を知ることによって種々な表現をすることが可能なわけで、読みコトバ、書きコトバとしては、そして恐らく話しコトバとしても他のコトバに勝るエスペラントの強い点でありましょう。しかしこれは他方、造語法があるから覚える単語の数は少なくて済むという、或いは、いつでも造語出来るという安易な気持ちと私達に与えているようです。実際、私の場合、英語などのように辞書に本様を引いてエスペラントの単語を暗記しようという気が起らないのです。造語法があるというこの安易な気持は、話しコトバとしてエスペラントをみると、一つのがんとなって、会話の上座を妨げているように思われるのです。

$aligās = al + ig + as =$ 加わる。と考えるのは、読むとき、書くときには苦にもなりません。会話の場合、次から次と出てくる単語について、いちいちこの様な手帳の単語の意味に到達しようとするなら、それに要するエネルギーは莫大なものでも、一時間も話しを聞いたら疲勞田慮してしまうことでしょう。会話の場合 $al + ig + as$

という合成語としてではなく、*aligas* それ自身が加わるという意味をも一つの単語として直接反射的直観的に把握されなければなりません。聞く場合はかりでなく話す立場にあるときにも同様で、例えば *neatendita* という単語を知らない人が、今 *atendi* から造語して用いようとするなら、会話のようなつさの場合にはつまづいてしまうことでしょう。造語されたコトバがもはや造語としてではなく、ひとつの単語として把握されている良い例は、*“samideano”* というコトバです。*“internacia”* も良い例であると云えましょう。私はすべての造語に対して、この様にそれらが造語として直観的に意味を把握される様にならなければ、日常生活にエスペラントが入り込めないのではないかと恐れます。日常の会話では沢山の語根を知っているより、むしろ沢山の造語された単語を知っている方が有効であるように思います。むしろ、造語の手法を失わず一通り変えることは必要でありましょう。しかし、あまり規則ということが前にちらついて、規則を克服出来ないのではあれば、むしろ、全く規則を知らないですべてのコトバをまる暗記しようと努力する人の方が速く上達するにちがいありません。英語の単語にも規則はあるのでしょうか、誰かやみに覚えたものが、今ではずつと身近なものとして感ぜられます。英語なら聞いていてもそれほど覆れないのです。そのようにエスペラントの造語法を克服する為には、究に身、相手か外人であれ、日本人であれ、話す機会を多くもち、多くの造語に接しなじむこと以外に方法はないでしょう。語彙を豊富にすれば、日本人同士で充分話しかつて学ぶ得る者です。その様に話しコトバになじんでいさえすれば、外人の発音が聞き易いとか、聞きにくいとかいう様なことは、*“Tute ne gravas”* ということになるのではないのでしょうか。とにかく自分には、語い (*vortaro*) が正しいということを感じた次第です。

LA SIMETRIA MONDO

NAGATA AKIKO

Vidante kinon, kiu filmas la vivon de sovaĝaj bestoj en Afriko, mi pensis pri la simetrieco de la mondo.

En barbara loko de Afriko, ĝirafoj ne estas brava soldato, kaj li povas forkuri pli rapide per liaj longaj piedoj, ol lia malamiko kuras Zebro havas hufojn kiel armilojn kaj elefanto fieras sian pezan korpon kaj nazon similan al fertubo.

Ofte zebroj submetiĝas pro akraj dentegoj de leono, spite iliaj tiaj armiloj. Sed unu leono, reĝo de arbarego, ne estas albatalema kontraŭ amaso de zebroj kiel aglo kontraŭ granda amaso de sovaĝaj anasoj. Bonŝance zebroj kaj ĝirafoj, kiuj estas pli malfortaj ol leono, estas vivantaj en la amasoj de la samaj triboj. Pro tio mi ne povas diri ĝenerale, ke en la batalo pro ekzistado leono estas pli supera aŭ pli forta ol zebro.

Unu el miaj amerikanoj diris al mi, ke la mondo de sovaĝaj bestoj estas kruela tiel ke ili mordas unu al la alia de nateno ĝis nokto. Jes, ili mordas unu la alian tage kaj nokte, mi aldonas, sed nur tiam kiam ili estas malsataj.

Kiam leono ne estas malsata, li estas romkanta sola aŭ marŝanta fiera, kaj zebroj povas ludi ĉe antaŭ leonaj okuloj. Li, glutema leono, neniam avidas la karnon kaj sangon de aliaj bestoj se li ne sentas malsaton.

Seke, la mondo de sovaĝaj bestoj estas simila al mia socio, kaj neniu povas diri, ke tiu mondo estas pli kruela ol tiun de la homaro. Ŝajnas al mi, ke la intenco de la mondo estas neatendite simetria. Ne nur en tiu mondo, sed ankaŭ en privata individuo, al mi ŝajnas tiel.

Gesinjoroj H. Havas kvin gefilojn. S-ro H. estas amata

de ili, kaj harmonianta atmosfero ĉiam regas al li la hejmon. Kontraŭe, ĉefministro Jawaharal Nehru amata de Hindanoj, havas nur unu solan filinon, kaj perdis sian edzinon dum li estis juna. Ĉu li povas senti sin feliĉa en sia hejma rondo? Sed amon kaj respekton li ricevas de multaj popoloj. Morto de d-ro Einstein malĝojigis la homaron. Einstein estis persekutata kaj vivis sola dum li estis juna, kaj pro tio li devigis sin tratabi al si la vojon de la vivado kaj studado.

Do mi komparu urbon Sapporo kun vilaĝeto Takadomari. Se vi irus Norden per vagono dum kvar horoj, vi alvenos la vilaĝeton. Enrigardu ĉiun fiŝvendejon en la vilaĝo. Probable vi ne povos vidi tiel fresajn fiŝojn, kiel vi povas vidi en Sapporo. En la vilaĝeto vi povos gajni rizon pri malkare ol en la urbo kaj vi povos enspiri dolĉan kaj fresan aeron ol tiun de Sapporo.

Per supre menciitaj faktoj mi ne intencas diri ke la vilaĝeto Takadomari estas pli konvena ol urbo Sapporo en la senco de mia vivado. Ĉar mi forĝesis skribi, ke vi devos pagi pli altan imposton loĝante tie ol en la urbo.

Vere, la mondo estas simetria. Ja, nekomprenible, intenco de la universo. Pro tio, mi pensas, al homo, kiu sentas sin malĝoja pro ia okazo, ne estas necese ke li juĝu sin kiel forĝesiton el la mondo.

La "Sento" pri la "Kongreso", k.t.p.

Jasuŝi Sugijama

1. Pri "Esperanto"

Ne larĝe sciata "Esperanto" estas, mi pensas.

Propagandigi per la radioj kaj ĵurnaloj estas plenebone.

Esprimigi la detalojn de la Akademio kaj lokaj institutoj de "Esperanto" estas ankaŭ necese.

2. Pri "Kongreso"

Bonsciigi la celon kaj membrojn estas bezone.

Plani kaj diskuti pli multe pri plibonigi kaj antaŭkurigi Esperanton estas tre ege bezone, mi kredas.

Daŭrigi eldonon de "Leontodo" estas tre ege bone.

3. Pri "Provo"

Vivi en Esperanto ĉiam estas la plej bona vojo por gajni Esperanton: tial mi penas kaj provos fari tiel.

Ĉiam mi provos havi la intencon, volon por lerni, studi, progresigi Esperanton.

Mi nun planas formi la lernolibron kaj provos disvastigi Esperanton.

4. Pri "Studo"

Elektu vortojn por uzi.

Memoru fundamentajn formojn.

Gajnu la konstruojn aŭ strukturojn.

5. Pri "Moto"

Netimu erarojn, sed tre ege timu nekorektajn.
Uzu kaj apliku Esperanton ĉiam.

Pripensu kaj pensu progresigi la movadon ĉiam.

(1959. 9. 3)

'MORALO DE LA AMO,

— el la ridindaĵoj de la mezepoka Japanio —

NOBORU HAYAKAWA

Je kaj iam okazigis konflikto inter geedzoj.

La edzo mirigita de suprenlevigata bastono de lia ekscitiĝanta edzino, kurage malsupren saltis al lian frontan korton, kaj timeme sin kaŝis sub la arbeton japane monata 'samsjoo' (山姥), kies rondaj fruktetoj kum pika gusto estis ĝenerale akceptatoj kiel la simboloj de la virineco. La virino, de sur verando, alkrie riproĉis: "Kien ajn ci povus alfuĝi, aŭ sin klini ol tien. Ci ja sin klimas al tiuj radikoj de la virineca arbedo, ĉu ne? Kiel senhontema!"

Tiam sin tremigante, ŝia bona edzo respondis: "Jes, jes, ne mur al la radikoj, mia kara, sed ankaŭ al ĉi tiuj grimpobranĉoj de la dioskoreanoj."

(Fino)

Respondo de l' enketo

Leontodo No. 15~16号(1956 - Julio)に座談会形式で発表したことがあります。前号(21~22 1958 Dec)の折込みに再度アンケート用紙を入れました。下記7名の方々から御返事を頂きました。まだ御回答のない方は是非お返り下さい。

Enketo pri Esperantistoj en Hokkaido — H. E. L. —

下記各項にそれぞれ御回答の上御返送下さいますようお願い致します。尚余白のない場合は別紙に各番号を附して書いて下さい。肉筆した事項で面白いことがありましたら複写紙の原稿として御送付下さい。

氏名 _____ 年令 _____ 職業 _____
住所 _____ 所属会 _____

★ Esperanto の学習について

- ① いつごろ どこでお始めですか? 講習会の場合講師は? 独習なら図書は? どんな教材でしたか? どんな方が一冊でしたか? 今までどの会に所属しましたか?
- ② 講習会を開かれたことがありますか? 何冊讀 何人位教え手が活躍しておりますか?
- ③ Esperanto以外の外国語で何かおやりになりましたか? Esp. はそれと比較してどう思いますか?
- ④ Esperanto に関して感銘を受けたこと、忘れられないこと、想い出の人、行事或は大会、聴をしたこと、観をしたこと、よかつたこと、ゆるかつたこと。
- ⑤ 過去及び現在の *Koresponde* に就いて どのことどんな *temo* ですか?

★ 運動についての希望

- ② 新しく学習する人に、所属地方会に、HELに、日本のエス会に、全世界のエス界に望みたいこと。

★ 抱 負

- ② 私はこう言うことをしている、或はしたい。

田中 眞美

1907年生

電気会社社員

友島市江波町/292 中電社宅

友島 Esperanto 会

- ① 1929年大連で独著 川坂 エスペラント提灯、国際主義建築株式の記事の中でエスペラントの名をみたのが初めてだったと思う。大連エスペラント会、新京エスペラント会、滿洲エスペラント連盟。
- ② 初回 1951年 オ2回 1953年 オ3回 1955年
- ③ 英、中、露をかじりましたがものにならず、どうやらまがりなりにも実用できるものは Esperanto だけ。
- ④ 1991年6月、三宅学会主宰を迎えてのオ10回全階エスペラント大会のことと云
S-ro Paulov en Harbino, S-ro Kim an Caucun K.a. Kiel
ili nun fartas?
- ⑤ ニューゼランド、イギリス、スペイン、ドイツ、ハンガリー、ブルガリア、ユーゴ、その他。
主として友島県関係
スウェーデンから取寄上の資料をもらったこともある。
- ⑦ まさに生れようとしている友島県エス連合会を中国北方エス連盟にまで発表させた。

星田 淳

27才

会社員

苫小牧市王子 北光寮

- ① もう相当以前になりますが昭和23年頃 熊本で始めました。当時五高在学中でしたが 子飼橋附近の古本屋で千布町のエスペラント全書を買ったのがはじめてです。簡略といつて特になつたが、父が幼い頃に「人間の休つたコトバもある……」と語ってくれた史観が暗示になつていて感じます。したがって根拠で、一冊に勉強した人はおりませんが、まもなくJFIに連絡して、熊本在住の平野氏、杜田氏らを紹介され、熊本エス会に入りました。その後五高にエス会らしきものを作りかけ、福岡へ移ると友人と共に九大エス会を再運しました。
- ② 五高時代は講習会というものは特にやりませんでした。しかし、共に九大へ進んだ僕の親しいグループを中心として九大エス会を休つたわけですから、その連中は、皆僕の影響でESPを始め人間だったということはいえます。(畿部、高松、田中、池田、森など) 彼等は皆一人立ちで活動できる程度になつていたと思いますが、今やつているかどうか不明です。他に五高でやり始め、そのまゝ 熊本

入って横浜に出た牧野三男は今も活発にやっています。

さて25年九大に入学した我々、すぐESP会に入って活動しようと思つたが、さっぱり部員募集の掲示がない。サークル活動家のメンメンにさいても知らないとの話。福岡工学会の市瀬氏も九大工学会は自然消滅らしいとの事で、よしそ水ではと決心した。われわれで取つてやろう……というわけです。

掲示板に、ESP講習会をやると掲示出し、人を集めたのですが、初めは40人近く集つたかと思う。しかし例によつてだんだんへり、結局十数人となり、これを中心に九大ESP RQND0 を結成した。その後毎年、全学対談に、又は各学部で講習会をひらき、会員も40名位になっていたかと思ひます。

又、市内高校生向けにサンマースクールを利用して講習会をひらき、市内高校や分校に進出して講習会やるなど、その回数は正確には思い出せませんが相当な数に及んだかと思ひます。ほんとのESP-ISTO をど水だけ育てたかという点は疑問ですが、

更に近くの亮義前に、Komencantoj がいるのをさき、たのまれて、しばらく講習を行いました。西田光徳氏など、今地九州で活躍しているようです。

北海道へ来てからは亮義前でまわりの者にすゝめてVortaro を売るとか講習会をよませるとかしましたが、苫小牧へ移つて(302年1月)どうやら講習希望者をある程度集めることが出来、昨303年3月以來、十数名を集めた講習を行いました。みなさん即存知のように王子製紙の労資関係はますます険悪の度を加え、多くが王子製紙組合員である上に、会場として王子労働会館を使つていたため、観行不能となりました。その後303年末迄あの激斗の中にもみくしやにされた感じ、ESPどころではない。おまけに講習生グループにも若干分裂の余波に及んでおり、今後再建するとしても前とは少し変つて来るのではないかと思います。

- ③ 幼年時代、大陸にいたため中国語は必読科目でした。もう殆んど忘れましたが。学生時代、英語、ドイツ語、社会に出てからラジオ講座でロシヤ語を少し。何んといつても文法難産。変化の簡単な点、ESP に及ぶものはないし、非常に簡単かつ実用的と思ひます。しかしESP では細かい *nuanco* を示すにどうもひつたりしない場合もある。しかし、そういう言語としての肉感的豊かさを追うのも程々にしないと、同家語としての簡単さと矛盾してくる。まあむづかしい何事かと思ひます。

亮音が日本人向きでやりやすい点は他の外国語の遠く及ばぬところではないでし

ようか。

- ② ESPに入るに当つては丁度取職直後でもあり、若くもあつたし、社会へ、更に世界へ目をひろげつゝあつた所でしたから、この自己拡大のために、ESPにとびつくのは自然だつたようです。ミラーの「観音に奪す」などに大いに感服した時代でしたから、あの *homaranismo* なるものに大いに同感し感服したものでした。ESPの意趣を高くうたいあげたロマン・ローランの文など、何處もくり返してよんだものです。取組といへば、文通でもそのように自分の気持ちと同じ *Korespondante* を得たときのよろこび等、初期には特に新鮮でした。

それから参加した行事は、九州大会(25年宮崎、26年福岡、27年大分) 全国大会は26年名古屋、27年京都、その毎年に忘れないこと、懇い出の人もたくさんあるわけですが、一頁にかけないからこの位にしておきます。

- ③ 若んどあらゆるものについてやつたようです。しかし内容のある文通の出来る人というものは少ないもので、そのような人はやはり生活、平和問題等、関にかたい *temo* をやりたがりますから、結局そのようなものが多くなります。特に長かつた個人個人との文通を探すと、ノルウェーの *Johan Snekvik* 氏と防衛問題、平和問題、スイスの *F-luo Erna Bonmann* と双方の国土の美しさ、湖、山について、*Harburg* の *Karl-Heinz B* 君と平和問題、ドイツ分断問題について、同様に *temo* では外に *CSR* (チエコスロバキア) の *Zdeněk Rejz* 氏、アイスランドの *Porirann Magnússon* 氏、最近ではリトワニヤ、ラトヴィヤ、ソビエト、中国とやっています。最近、王子斗争について文通の手紙も来ていました。くわしくは又かきたいと思います。
- ④ 新しく学習する人に「今日出来ることを明日にのばすな」意中して一気にやることです。

所属地方会 — なし 自分でやらねばならない。

日本のエス界に — とても仲向をふやす事がオノだが、今ある人々だけでも、もつと組織的に動かさなくては……と思います。

HEL に — 大会だけの組織みだいなありごまでは残念と幸いです。みんな *ESP-ista* なのだ、どんどん社会を依つて交流しましょう。皆でESPをたのしく勉強できるという事を示せば、まだ入つてくる人は多いと思います。

全世界のエス界に — あまり大きすぎるとどうともいまいにいが、国字、民族、思想

信仰のちがいをこえて *Per Esperanto Por Mondopeco!*

を共に叫び共に行動しなければならぬと思います。

- ⑦ 抱負……という大げさだが、今のところスト激戦のため、さつぱり覚悟ふるわず、自分で前からやっていた文通もこましばらく停戦中。余り大きいことはいえない。まあ出来るだけのことをやりたいというだけ、人間あまりあれやこれや手をひろげると、結局どれも出来なくなるうらみあり。

Nagata Akiho

22 (1936) 生

札幌市北二丁目ノ7

日本エスペラント学会 (世界連邦連教同盟)

- ① 4年前、オタルの海員学校のタカハシ先生に通信教育でおどわりました。勤労は世界連邦社会にはひとつの国家語が必要だと考えたからです。
- ② 3年前に藤女子短期大学でひらいたことがあります。
- ③ 英語は8年向学校でまなびましたが、そのほかロシア語、中国語、インド語にそれぞれ少しずつ自分で手だししました。その中でやはりエスペラントがいちばんやりがいがあるようです。
- ④ ハンガリーのノ女社 } との文通はつづくようです。テーマはぐちから希望に至る
アメリカのオクサン }
まで種々林々です。

Toda Yuhiko

22 (1936) 生

教員

沙流郡平取町字平取

- ① 2年前に修習しました。用語はエスペラント4週間
- ② 勤労は実業に興味があつてしました。
- ③ カナダ、フランス、ブラジル と文通しています。テーマは文学について
- タカハシ タエコ 1922.5.24 生 (34X8ヶ月) 大正11年カコ
サツロシシモシロイシ、シラカバダンチ 30ムネ、187ゴー
- ④ イツ：1956ネン、ドコデ：オタルノピョーインニイタ、ダレニ：ヒトリナ
ライ (アリマヨシハルサン、ハヤカワノボルサン) ヲタツネ オシエテフレタ。
⑤ ホン：エスペラント (ゴサカミル、マツバラカク)、ナゼ：カナモジノキウメオ
シテイタトキ、カナモジカイカラミラサレタ。
- ⑥ エイゴ、ニナゴ、ナドニツイテスコシキイタ。オオクワスレタ。
ミタトゴロオボエヤスイトミエルガハナニシクイ。
シカシ、イチバンヤマゴシイノワニホンゴ、コレワイクラヤツテモヨクワカラヌ。

④ ニホンゴオシルタメニマクニタツチイル。

田 辺 至

28 才

教 師

留美市千島町留高寮内

- ① 昭和27年8月、若見沢市で、由仁町の新田先生から御指導いただきました。
勤状は、私は英語も独語もとても不得手でしたから、何心とか易しい外国語をし
りたいと考えていましたので。
- ② 小生に語る資格なし。
- ③ 感銘を受けたことは、外国人と文通を始めてから、最初の返事が届いた時のこと。
(それ以前はいいこと)
× 我々日本人も色々な外国人の風習こそちがえ、人間の心(人間らしさ)にはち
がいないのではないかと考えられること。
- ④ (現在)

チエコ : 理科教育について。(男の先生と)

西ドイツ : 仏教について (女子学生と)

ブラジル : 理科教育について(男の先生と)

ベルギー : サラリーマン(日本人の)生活について(銀行員と)

スペイン : 同 上 (工員と)

- ⑤ 活動を活発にするにはどうすればよいかを、充分研究する、恒常的な委員会を依
って検討して下さい。
- ⑥ 小・中・高校の日本の理科の教科書と外国の理科教科書の交換。

山 崎 久 蔵

66 才

藤女子短期大学教授

札幌市北26条西8丁目

日本エスペラント学会員 北海道ESP 連盟員

- ① *Mi lernis esperanton antaŭ 40 jaroj en la kurso de Esperanto, kiu daŭris dum unu semajno, la Libro estas Komplito de Hideo Jagi. Gvidanto de la kurso estas Tadakatu Juri, kiu nun loĝas en Kobe, kaj Li nun laboras por la kara Lingvo.*
- ② 旭川市で1回、今学大でも毎週教えていますが、この種は再びかどうか、旭川市での会には10人位あったと思いますがのびていません。
- ③ 英語と独語を少々やりました。英独共に話せません 書けません Esp. はゆっくりなら書けます。そして外国人と対等だと思ふ心安さがあります-----
仮りに下手であっても。
(18頁下段へ続く)

「くずれ落ちる抱負」

西 里 静 彦

今日はノ月ノ日、なにかずかずかしい感じがします。その様な元旦そうそうにくずれ落ちる抱負とはなさけない。しかし受分新たなところで、まずは車の走るままにおまかせ下さい。

昭和33年12月27日午後5時、それは卒業論文の提出期限でした。等校にとまりこんで3日間の昼夜兼行、そして最後の日は食事めさ。それでもまだ昼頃迄は論文にエスペラントの要約を付けようと考えていました。しかし正午を過ぎ、2時、3時、4時と短針は長針の速さでめぐり、もはやエスペラントで、という余興は頭の中隅にしない、英語の要約と辞典を使う余裕はなく、少し書いては、隣りに送ってタイプを打ってもらう。その間にまた少し書くという快しさ、とうとう5時15分前、タイプライターをかいて約100ml、筆勢の起口につけつれるという稀に見る醜態を披露してしまいました。提出したのは5時寸前、とうとう尻切れトンボ(*abrupte finita*)という、解放どころか今なお重い荷を背負うことになりました。自分の感情すら調整出来なような怖ろしいストレス状態に追い込まれ、自分の業刀さを如何なく見せつけられました。残念ながら、ここではエスペラントに全く余興という地位しか与えられていません。早くから卒論にはエスペラントの要約もと考えていた筈なのに、とにかく私には悲劇的な幕切れでした。

皆さん、これを読んでお笑いになりましたか。それともいやな感じがしましたか。敢て御返事をいただくとは思いませんが、似たような事例は誰にでも、現在迄に起っていないにせよ、可能性としては存在することでしょう。

私がエスペラントを、一つの余興にしてしまったことに対して、もし討論するならば多くの熱心な方々は反論を唱えるかもしれません。しかし、自分の生活の場を漸次必要性の度合に応じて縮小して行くならば、程なくエスペラントが、その枠からしめ出され、余興の仲間入りすることは明らかなところですよ。実際にその様な場面から日常生活には少くないのです。上例はその一つです。時間に追られると、学校側から要求される英語に仕事の対象は限られてしまいます。

日常生活でも、時間が無い、わからないとなると、エーイめんどうだ、勘弁してもらおうということで、*la 1-an de Jan., 1959, Kara Samideano.*

…… *Tute via* 以外は、長いこと発言にうちすぎ云々という日本語で書くといった調子。これもひとつの例にすぎません。一般に生活の中心から遠い距離にあるエスペラントを単なる余興であらしめない為には、生活の場をあらゆる面に関して、意味に於て、広くもち、且つ保ち得ることが必要であろうと思います。

考えてみると、何と数多くの抱負が一時はこの胸をふくらませ、そしてあえなくすれ去ったことでしょう。大きな抱負も小さな抱負もすべて多かれ少なかれ、実現の可能性があつた筈（この点、即ち実現可能なという点に於て抱負と夢とを区別しておきます）。それなのに実現したものは極めて少数です。エスペラント運動に関する抱負はとかく甚大で、日常生活との結びつきも表面上、希薄であり、それだけにその実現迄には相当の時間と労力を要するものが多いように思われます。それが単なる一時の夢に終わってしまうということは、努力が足りないから？、力が足りないから？、望みが大きすぎるから？、周囲の気運がその方向に向いていないから？、それとも何か他に原因があるというのでしょうか。

私は、それを未熟な準備性（*preteco*）ということばで考えたいと思ひます。衣食住の問題が日常生活に於て中心的な位置を占めているのに対して、エスペラントのそれは周辺のです。生活に必須のことであれば、或いは中心的なものであればあるだけ、その準備性は、殆んど生得的に或いは本能的に得られますが、その逆の方向、つまり周辺のなものになればなるだけ、その実現の爲の準備性は自らの力で獲得しなければならぬという破天的な色彩を強くしてくることが一般に云われ得ましよう。その兩者（中心的、周辺の）を混同する限り、準備性の未熟は伴い「くすれ落ちる抱負」、一時の夢と化す抱負ということは当然の帰結となると云つても決してそれは誤りではありません。ごくありまえのことです。周辺の色彩の強いものであればあるだけ、それを実現する爲の準備性は獲得され難く、従つて一層の努力が必要です。

準備性。それは現実的な日常生活と未来的な抱負との橋渡しをするもので、具体的には、主として本人の関心、心構え、計画性、能力、余裕、周囲の状況、機運などが現実と未来との橋渡しをし得るだけの水準に達しているということ。（従つて、夢に関しては準備性ということを考えません）関心が弱くても能力或いは余裕がなくては、能力があつても、関心或いは余裕がなくては、余裕があつても関心或いは能力がなくては、抱負を現実化することは難しく、又、周囲の状況、機運が向いていなければ、甚大な抱負も

浮足立つて感じで、やや実現から遠ざかりましょう。

これら諸々の条件をみると、準協定の獲得、習得ということ、より一層はつきり示しているもの、つまり本人の努力で獲得しなければならなく、且つ獲得し得るもの、従つてまた他人の把握を実現させる為に必要な基礎的なもの、それは何かといへば能力であると云えましょう。これはかりは、一時に獲得されるものではありません。もつとも能力といつても甚だ意味が玄くて真然としています。ここではその中より特にエスペラントの学力を指すことにしたいと思います。苟くもエスペラント運動に關して把握をもちそれを實現させようとするなら、先ずエスペラントの力を養ふことであると云つても過言ではないでしょう。極言すれば、基礎の弱い浮足立つた把握はくすれ落ちるのみ。

昨年の夏、ある人に英独仏などの外国語をやつている人にくらべてエスペラントの方はレベル（読み、書き、話すという語学のカという意味にとりました）が低いようだといわれた時には、ドキンとするやら弁解したいやら少々腹が立つやら、でもとにかくまあそうかも知れないなど云つてその場をのたれたということがありました。皆さん、もしも三者にそんなことを云われたならば、恐らく腹をたてることでしょう。その云い分が間違つているからですか、知りもしないことを推測して云うからですか、それとも痛いところをさわられたからですか、これかもし私達 Esperantistoj のみで、そのレベルということに關して討論したなら如何なる結論と導き出すことでしょうか。

エスペラント運動、それが言語に關する運動である限り、その言語に対する能力が養われていないと運動に充実感はありません。エスペラントが日常生活の枠外にある限り或いは興用に供されない限り、この運動は基礎の弱い単なる抽象的な理想を造る運動にもなりかねません。くすれ落ちる把握がその産物かも知れません。ここで私は理想を造るなどというのでは決してなく、理想は常に抱いて欲しいのです。唯、それにつけ加えたいのは、その理想を教々のくすれ落ちない把握によって抽象の世界から現実の世界へ移して欲しいということ、です。

エスペラントは独習でもかなり上達し得る筈、しかし皆で学ぶことは更に進歩を早めることかも知れません。運動を進めるには、懇親会も必要でしょう。ただ、近年エス会不況の原因としてあまりにもエスペラントの勉強ばかりをするからだということがよく云われ、それに対して歌をとり入れる、遊びをとり入れるということが強調されています。私もそれに関して何の反響

もなく、当惑のこととして受けいれていましたが、どうもその強調の意にか
くれて、学力不足ということが運動の一つの盲点になっているように思われ
るのです。エスペラントを学ぶからには、どうしても外国人と話せるだけの
力を養うことが目標とされなければならないでしょう。それにはかなりの勉
強が必要です。目標は出来るだけ早く、意欲のなくならないうちに達成させ
たいものです。そうして、生活の場を広くし、準備性を獲得すると共に、多
くの抱負を抱き、その実現に努め、そうして理想への無限の近似を獲得して
行きたいものです。

ながながと書いてきたこの文章、これは今度の失敗から導き出した自己批
判の意味を含むものでした。抱負、それが実現の可能性極めて濃厚なとき
にくすね落ちるということは何としても残念なこと、それにもまして、時は
全なりという言葉をおろそかにし、自分の能力を過信していたことは、今期
悔やまれる次第です。

14頁。Enketo の続き

- ④ エスペラント語で Zamenhof 博士の大会演説を読んで感銘を受けまし
た。大本教の南祖 玉仁三郎さんに、エスペラントの問題で面談したこ
となどです。
- ⑤ 今はやっていますが 終戦直後は十四ヶ国、主として *Okcidentuloj*
の人々五十人程と、平和問題で文通したのですが、今は一冊一冊してい
ます。
- ⑥ 若い人々にもっと雅気があり、もっと熱があつたらと思います。どうも
街喧けど人踊らずの嘆きがあります。
- ⑦ 私は、下手でもよいからエス語でのみ話す機会があつたらよいと思いま
す。常に使われないで、いざとなるとドモつてばかり。

Oficiala Protokolo de LA 23-a Hokkajdo Esperanto Kongreso

Sapporo, la 23-an, de Aŭgusto, demanĉo 1959.

(ĉe dua etaĝa kunvenejo
de Sapporo-urbana domo)

★ La akceptejoj malfermita (9.00)

開会の予定は 10 時 30 分ですが地方から来られる方々の為と云う事で akceptejoj を 9 時から始めましたが会場の場所がわかりづらい点もあつて早く来られた方は少数であつたが、それでも 10 時過ぎには大会参加申込みをされたほとんどの方々が飯をそろえました。

akceptitaj membroj

realaj ĉeestantoj	44
nominalaj partoprenantoj	23
<hr/>	
tutaj partoprenantoj	67

★ Malfermo de Kongreso (10.47)

北大エス会の西里氏の prezido によつて開会が宣言され全員起立して Espero の Ĥoro.

★ Ĥoro de Espero (10.48)

★ Saluto de prepara Komitato (10.51)

de S-ro Aizawa

本道の Esperantistoj の喜びと希望の集である年に一度の定期大会は晴天に恵まれ多数のエスペランティストを迎える事が出来、我々準備委員一同、心から喜んで居ります。と挨拶、此の大会が有意義にかつ成功に終る事を、そして今後、皆々 Esperanto が集える事を心から希望します、と結んだ。

★ *Elekto de prezidanto* (10.54)

準備委員一任の声あり。ArangantoのRekomendoによつて、由仁のS-ro Nittaが全員の賛意により prezidantoに決定。

★ *Saluto de prezidanto de S-ro Nitta* (10.55)

Karaj geĉeestantoj!

Mi estas tre ĝoja kaj honora saluti al vi kiel prezidanto de tiu ĉi memoriga kongreso okaze de la 100-jara datreveno de la naskiĝo de D-ro Zamenhof.

Laŭ la deziro de la aranganto S-ro Arima, porke mi faru la saluton eble plej mallonge, do permesu min saluti tre mallonge

Unue: Mi ne ŝparas esprimi korajn dankojn al kongreso-komitataroj; precipe al Sapporo Esperanto-klubanoj, kiuj bone klopodis okazigi ĉi-kongreson.

Due: Al mi estas granda ĝojo trovi ĉi tie gesamideanojn en tiom granda nombro.

Trie: Estas ĝoje, ke ni povis bonvenigi la gaston S-ron Azuma kiu estas fama konata malnova esperantisto, kaj parlamentano.

Kvare: En la lasta kongreso S-ro Sakaŝita diris en la saluto, ke la kongreso devas esti la festo ĝoja kaj gaja, sed ne severema kaj ceremoniema. mi ankaŭ jesas lian diron: La kongreso donas al ni lokaj esperantistoj la okazon kolektiĝi ne nur por fari decidojn pri la movado, sed ankaŭ por pasigi ta tempon en ĝuado, babilado, kantado kaj plu en verda atmosfero.

Fine, mi esprimas mian koran gratulon okaze de tiu ĉi kongreso kaj samtempe mian profundan estimon al la ĉiamaj klopodoj de la membroj de H. E. L. kaj aliaj unuopuloj en la tuta Hokkaido, kaj sincera deziras ke la kongreso finiĝos.

sukcesoplene.

Mil dankojn pro via aŭskultado de mia fuŝa parolado mal-
longa.

★ *Prezento de gratulaj telegramoj* (11.00)
de aranĝanto

祝電ヒーローに先立ち s-ro Aizaŭa の提案によつて熱心な Esperantisto で
あつた故 山本佐三先生の御メイツクを prezidanto の声により全員起立レモク
ト一を捧げた。次いで aranĝanto 田原氏より次の方々の祝電のヒーローがあつた。

◎タイカイヲシエクシ ゴセイカイヲイノル、ザメンホフトヘイワバンザイ
de s-ro Hajime Inoue en Hakodate

◎ゴセイカイヲ オイワイモウシアゲマス
de s-ro Sakae Odaŝima en Kunebecu

◎エスペラントタイカイノゴセイコウオ イノリマス
de s-ro Seiti Itô

★ *Raporto de Lokaj Grupoj* (11.12)

a) Hakodate (s-ro Joŝida)

原稿未着

b) Mutoran (s-ro Hirata)

始めて北海道大会に参加し親しく皆様にお目にかかる事が出来て非常に嬉しく
存じます。

室蘭エス会は昨年九月二十六日に同志十名で結成し、運動方針としてはもつぱ
ら内部態勢の強化に専念することとし、毎週金曜日には会合を持ち学習に勤め
居ります。出席者平均七名くらい、テキストはペテルを用いて居ります。対外
活動としては昨年十一月二十一日より三日間、室蘭水会々館で同志飯谷が主催
した鈴木賢治氏の原爆絵巻展覧会を主催し三百人を動員しました。

本年四月十四日室蘭に於ける Zamenhof 祭の實況を N. H. K で録音して
もらい四月十六日午後六時五十分「話題を呼んで」で約三分間全道に放送され
ました。

月班会はカモさん宅で7月より9月まで三宅氏の初等読本を用いて、初等講習を行って居ります。

次に8月8、9両日支笈期でキヤンパを開催し、小樽3、札幌3、由仁1、苫小牧1、室蘭8、早大3、計19名の参加を得て盛大であつた。以上で大体の報告を終りますが、今後の計画として8月27、28日室蘭市々立図書館で会館後援で Esperanto 圖書の展覧会を開催し9月8日から2ヶ月の予定で富士鉄労働会館で初等講習会を開く予定です。又9月1日から富士鉄の職場で同志佐々木が昼休みを利用して30分講習を開く予定です。

c) Tomakomai (s-ro Hošida)

未 音

㉔) Otaru (s-ro Takahaši)

欧州航路の寄港地である s-ro Kaŭai Takaši が世界各国の寄港地で撮つた8%のフィルムを并つて来て見せて下さいました。小樽は港町であります函館上船によるお客さんが他の地方に比べて多い事は我々に取つて大変幸せな事だと思つて居ります。又、小樽の千秋高技に於て Esperanto Clubo が出来、生徒を対象に初等講習を開きました。Lernantoj は多い時で60名くらい、少い時は20名くらいと云う盛会でした。この様に若いエスペランティストが増える事は Esperanto の発展に大変よい事だと思つて居ります。

小樽に於ける今年の大体の事業は次の如くです。

- i S-ro Kaŭai Takaši portis 8mm filmon.
- ii 平館勝岩氏 montris bildojn kiujn s-ro Yamaga kolektis el diversaj landoj en ĉiu lernejo.
- iii s-ino Worcester el Londono vizitis Otaru.
- iv Aŭtuna kunsido.
- v Kurso en Ŝenŝuu Altlernejo ĉe 30 Lernantoj partprenas.
- vi Venonta aŭtuno, ni malfermos.

d) Juni (s-ro Izumija)

Karaj geamikoj

Permesu min raporti anstataŭ s-ro Nitta. Estas bedaŭrinde

ke mi povas fari meniam indan raporton pri la movado de mia loka grupo en Yuni, sed bonvole ne ripoĉu nin pro nia malvigleco en la lasta tempo. tamen ni, persone, senlace propagandas nian lingvon kaj pli kaj pli multigas la subtenantoj el kiuj hodiaŭ 3 belaj movaj fraŭlinoj ĉeestas kun mi kaj mi esperas ke ilia aligo forte akcelos la progreson de Esperanto en nia vilaĝo mi petas vian plian kuraĝigon kaj helpon por la plua disvastigo de la lingvo. Dankon!

e) Ebecu (s-ro Macuo)

江別エスペラント会事業報告 (1958.8 ~ 1959.8 分)

1959. 4月 本会事務所を「江別市緑町東4-6」松尾文夫氏宅に移転した。

“ 8月 8月20日より毎日 午後7:00~8:30の間、特別初等講習を行つて
いる。参加者3名、講師は松尾文夫氏、場所は本会事務所、会話を
教室に借り込んで、小坂氏の講習用書を使用。

1958. 8月 毎週土曜日、午後8:00~9:00の間、中等講習及び会話、作文の練習中。参加者3名、場所は本会事務所

(現況) 現在員3名、新入会員1名、計4名、尚当市内に新しい同志2名在住と聞き紹介中。

(今後の方針) 本会々員5名以上の獲得が可能となつたので、今後分担を決めて勉強に、運動に活動したい。

f) Hokudai (s-ro Niŝisato)

北エスペラント研究会

Laŭ kutimo ankaŭ tiu ĉi jare ni komencis elementan kurson de la fino de Aprilo, du horojn ĉiu lundo-vespere kaj finis en la fino de Majo. Ĉiujfoje 7 aŭ 8 geamikoj ĉeestis.

Dum la kurso mi penadis uzi perbuŝan metodon. Ĉar mi pensis, ke la mondo nun necesas la plej praktikan lingvon. Praktikeco estas ja vivo de Esperanto.

Jen estas la teksto. Kion mi faris por speciale ekzerci Konve-

rsacion. Senretene kritikiu ĉi tiun tekston.

Pri la rezulto per la metodo, mi mem kredas-ke ĝi estis fruktoplena.

Tiu ĉi jare nia movado ne estas lnda je nomi kluban movadon, ĉar mankas sekvantoj. Jam en la lasta Aprilo, s-ano Macuda kaj aliaj kunlaborantoj elgradiĝis kaj foriris lernejon.

Ni nun havas menian konkretan projekton ĝis, sekvanta Aprilo. Sed mi kore esperas ke unu tagon nia societo refoje floru kaj prosperu. Bonvole atendu la tagon. Dankon.

g) H.E.L. (s-ro Takahaŝi)

H.E.L.としてこの1年間に何特みるべき業績のなかつたことは甚だ遺憾に耐えませんが事務局の手不足や個人的な多忙の理由のほかには何としても会員の協力にまつべき点が充分でなかつたことも原因であると思えます。

Leontodoの発行も不定期になり遅延している現状は、機会ある度に皆さんに訴えている様に原稿の来りが皆無に等しいことと会員の排込が不活発であることが大きな原因であつて、この点については今後一層皆さんの協力によって皆さんの連盟であるH.E.L.の発展を期待したいと思ひます。

g) Sapporo (s-ro Arima)

Mi estas Arima-Yoshiharu en Sapporo. Mi gratulas al la 26a Hokkaido Esperanta Kongreso. Mi nun raportas al vi pri la aferoj de nia societo, kaj permesu min, ke mi raportas japane.

まず、サツポロエスペラント会の組織確立についてご報告申し上げます。従来サツポロエス会の名前はありましたが、会員も会長、役員もハツキリ決つておらず、会の組織が確立されていなかったので、こんど会則を作り、会員を募集することに、会長には弁護士吉原正太郎氏を推し、会計係に鹿和美、庶務係に横藤誠治、永田明子、企画係に吉原正太郎の晴氏を選びました。今後この厚意でサツポロエス会はEsperantoの発展に努力する予定ですから、よろしくご支援の程おねがいいたします。

次に Jäüda Kunsido について申し上げます。毎週木曜日にトヨヒラの道楽アパートの 5-ro 高橋のヘヤで、18時から約2時間 Jäüda Kunsido を開いています。現在で 70 回になります。参加者は 3-8 名で、会話の練習とザメンホフ読本の読解をやっています。

次に、この7月1日から31日まで至べ 14 日間 毎週月水金の 17時半から1時半 エスペラント初等講習会を、北 16 条のキリスト教堂公会堂北大センターの2階図書室でおこなないました。講習書には三宅さんのエスペラント初等読本を使い会話を主として最初からエスペラントの文に接触することにつとめましたが大抵の説明がたりないという声が多かったので、講習用書によつて文法だけを2日間やりました。申込者は 12 名でしたが、講習を受けたのは 10 名で、最後まで残ったのは 5 名です。さようこの大会には 4 名参加しております。

4月はじめに、イギリス人の S-ino Worcester ボサツポロとオタルの同志を訪ねるためにわざわざ京都から来道されたので、4月2日 17時半から喫茶店石田屋でウースター夫人の歓迎会を開きました。その夜の参加者は 20 名で、そのうち 5 名は人類愛善会の方々でした。

5月19日には、ニュージーランドの S-ro Hart の歓迎会を 19時から喫茶店石田屋で開きました。参加者は 6 名でしたが阿野博士らとのアイヌの話、日本の経済の話などに花が咲き興味深いひとときを過ごしました。

6月29日には、トーキョーの S-ro Nakagawa の歓迎会を 18時から石田屋で開き、7名が参加して、才46回日本エスペラント大会の証、オリンピックへ参加する人々へのエス語宣区に対する話などが語られました。

8月6日には、トーキョー早大の佐藤、菅田、田中の3半生が北海道見学途中サツポロに連れられたので、18時から Jäüda Kunsido の場所入招き Kunsidantoj 10 名が参加して歓迎会を開き、北海道の方言などの話が出て愉快な時間を過ごしました。

最後に Zamenhof 誕生百年祭記念の Esperanto 図書展覧会について報告いたします。8月19日火曜日から6日間、本日 23日まで丸善札幌支店3階洋書売場で、エスペラント巡回図書展覧会を開催していますので、昼食休みの時間を利用してぜひ観覧していただきたいと思います。なおこの図書展覧会はサツポロが終了したら次はオタルで、その次はムロランで開くことになってお

りますから念のため申しぞめます。

以上でサツボロエス会の事業報告をおわります。

★ 此の一年間に来道された外国の方々の報告 (11. 39)

de s-ro Aizaūa

今年の春来られたウースター夫人について申し上げます。夫人は英西で神レイ等の研究をして居られ、札幌に来られた時 *de domo de s-ro Yamamoto* で札幌の神レイに関する方々と会って色々お話をされましたがその中で日本では此の様な会合を弄つ事はどうなんだと云う様な事を云つて居られたが、迷信とかなんとかと云う問題も含んでは居ると思ひますが政治的に神レイ等の集まりを禁じている国がありますのでそう云う意味で云つて居られたのだと思ひます。夫人が日本へ来る動機と云ひますと、夫人の所居して居る神レイ学会のゴウレイ会と云うのが毎月あつて、そこであなたは日本へ行くと予告されそれで日本へ来たと云う事です。此のゴウレイ会と云うのはレイ界と現世の人々との間に *medium* と云う媒介人を通して話合をするのであつて、一つの室があつて壁の所にイスがあり話をする人達を座らせ丸テーブルに両手をのせるよ一枚のLPレコードをかけ音楽が終ると電氣を消す。そしてレイ界と話をするよ仕掛になつて居るのです。或る時時に強いレイが現れ室が紫色に輝いたのだそうです。そして夫人が隣の人にその事を話すと隣人は何も見えないと答えたそうです。しかしその時、室は本当にその様に輝いているんだとレイが答えたよ云う事です。そしてオオモトの三代林 (デグチワニザブロー氏) のレイが表れ英語で日本から二人の人があなたを迎えに来ると云う事、そして貴女は日本へ行くと云う事を云われたそうです。そして貴方 (三代林) は英語が出来なかつたのではないかと、どうしてそんなに上手に英語を話すのか? と聞いた所、私は死んでから娘と一緒に英語を学んだと云つたそうです。此の室の真中にトランプの様な形をした蛍光塗料をぬつたものがあつて、これが廻り出し室のすみの方へ行きそれから夫人の膝の上に来、そしてまたもとの所へとどつた時膝の上を見ると黒い十字架があつた。此の十字架には丸に十の字のオオモトの紋所がぎつり彫つてあるのです。この十字架を持つて居ると力強いレイの加護を受けると云われ、私も見せてもらいましたが、見せてもよいが他人に触らしてはだめだそうです。この十字架がこわれてしまうと云う事です。此の意味は紋所が消えてしまうと云う事がバラバラにこわれることは解りませんがとにかく原形がくずれると云う事だと思ひます。しばらくして日本のオオモトの人が二人 英国に来たがいつまでたつても

日本へ来いと云う事は云われなかつたけれども彼等二人が日本へ歸る時飛行場まで送つて行つた所、彼等が飛行キに乗る時になつて、招待するからぜひ日本へ来てくれと云われて来日したと云つて居られました。

次に Novzilando のフレッド・ハート氏についてお話ししますと前もつて何の進らくも有りませんでして突然、仙台からハガキが来て、こう云う人が行くからよろしく頼むとだけ書いてあつたわけです。彼は大的日本びいさであるばかりではなく、ずい分日本を研究して居られたのには驚ろきました。宿もなるべく和式がよいと云われ食べものも日本食を望んで居ました。食べなかつたものと云えばナメコのミノ汁ぐらいなものです。

午 後 の 部

★ *Fotografo de rememoro*

12. 05

★ *Tagmanĵo*

記念撮影の後、各自昼食を取り、南1西3丸善書店で開催中の Esperanto 図書展覧会を見に行く。13時45分 午後の部が再開されると共に H.E.L. の坂下氏が挨拶、大体的内容を記すと「年に一度の此の大会を皆さまと一緒に過ごすことを楽しみにしておりましたのに残念なことに今時頃、私の所の従業員が感電即死する」と云う事故がおさまして、病院、警察、労働基準監督署等の手紙のためそつちの方へ行かねばならず、御挨拶だけ申上げて失礼を致します、又毎度の事ですが *Leontodo* の原稿の事もよろしくお願い致します。

★ *Diskutoj pri la proponoj*

13. 48

— 来年度の大会開催地について —

Aranĝanto — 今迄は札幌と小樽が交互に大会の開催地として選ばれているのですが札幌は二年続けて大会を開いた訳です来年はどこか変わった地方でと考へて居るのですがいかがでしょうか、と云つても地方会のある所でと云う事に成ると思いますが。

Oni

— 吾小牧！ 室蘭！

Murorananoj — サライネンは室前で開きますから来年は苫小牧で。

Hošida — Ne havas kapablon !

Prezidanto — 江別はいかがですか ?

Macuo — 江別は田舎町ですから。それは地方会といつてもまだで、もう少し成長してから、やはり室前あたりがよいんじゃないですか。

Aranĝanto — それでは室前と苫小牧と合同でやったらどうですか ?

Hošida — それなら賛成

Kamo — 大会を開催する能力は充分にありますけれども、札幌と違つて室前となりますと出席者の数があまり少くなつては意味が無いと思います。ですから少くとも今日出席している方々は全部出席すると云う条件であればお引受け致します。

Prezidanto — 今日出席されている方々が全部出席すれば引受けると云う事ですばいかがでしょうか ?

全員 — 賛成 !!

Prezidanto — 来年度の大会は室前で開く事に決定します。

Aizaŭa — 大会の日時について大体の所を決めていただき度いのですが。

Hirata — 参加者の希望通りいつでも結構です。

Prezidanto — 来年度大会の日時について御希望がありましたらどうぞ。

Joŝiŭara — 私の個人的な事で大変申し訳ないけれど、私としては 8月 10日 所は どうも都合が有らして……

Prezidanto — 8月 21日 の才三日既日はいかがなものでしょう。

全員 — 賛成 !!

Prezidanto — では来年度の大会は 8月 21日 に室前で開く事に決めます。

次に HEL の役員改選についてでございますが此の大会は HEL の大会ではないのですが此の場で HEL の役員改選を行つてよろしいでしょうか。皆林にお計り致します。

Aizaŭa — 皆会議の多かつた時は別に HEL の大会をもつた訳ですが現在は議題も少いことではあるし、減ぶれも大体同じわけですから此の場で役員改選をやつて頂き度いのですが。

Oni — 差しつかえなし !!

Prezidanto — では此の場で HEL の役員改選を行う事に致します。

まず最初に旧役員の紹介を致します。Leontado の 21-22 号の最後のページを見て頂けばすぐわかりますけれども一応読み上げます。委員長 坂下清一。専ム局長 相沢治雄。常ム委員 アリマヨシハル、高橋要一、西里静彦。委員 山賀秀、高橋達治、平田岩雄、新田義男、藤井沢司、竹吉正広、菅原鉄雄、吉田栄、以上です。

以上の方々について御意見をどうぞお願い致します。例へば改選であるとか留任又は全面的に改選と云う風に。

Kimura — 従来の委員で充分に申分ないと思います。但し地方会のある所から / 人ずつ委員を出すと言ふ立前でもある事であるし江別と苫小牧から新しく委員を各 / 名ずつ出してはいかがですか。

Oni — 賛成!

Takaha^(札幌) — 只今岩見沢の武田さんが御入会下さいまして、エスペラント活動を
張力に行うと御約束下さいました。一つどうぞよろしく。

Prezidanto — 札幌の木村さんの御意見にしたがひまして江別からは松尾さん、
苫小牧からは屋田さんを、それに岩見沢の藤井さんがほとんど活動出来ない
状態にありますので藤井さんに代つて武田さんと致し度いと思ひますが御異
議御座居ませんか。

Oni — 異議ナシ!

Hoŝida — 苫小牧では講習会は開きましたけれども王子のストでその後これを統
けることが不可能になりまだ会と云うものが出来て居りませんので私は辞退
したいと思ひます。

Prezidanto — 会がなくとも結構だと思ひますが?

Hoŝida — ではお引受け致します

Prezidanto — HEL の会費の事についてですが会員が北海道全体にわたつて
居りますので会ヒが来らないと言ふ弊害があるのですがこれを無くするた
めに地方会からまとめてお願いし度いと云う要望が出て居りますが、その旅
にしてよろしいでしょうか。

Oni — 賛成!

Prezidanto — なお HEL の会員については専ム局の方で調査し地方会へお知
らせ致します。

Arima — 新しい方々がだいが増えまして HEL についてまだよく解らない人が

居る株ですのでHELの内縁について事A高から落致して下さい。

Takahaši — HELの構成は規約にもうたつてある通り北海道に在住する Esperantisto 中の希望者または地方会の各団体が構成されて居ります。事素と致しましては年四回レオントードを発行するのが主な仕事です。会費は年200円です。秋與翌年四度と云う事になつては居りますが取寄が来まらないため今の所はこれが出来ない状態です。又こゝろから特定の方々の原稿ばかりで肝心の北海道の特色がうすれると云う弊害も生じますので皆株ドン原稿を連盟に送つて下さる株重ねてお願いする次第です。

Sugaŭara — 連盟の大会を別に持たなくてもこの大会に来られる方は極力連盟に入つて頂たく株にどの申合せをした株にも思いますが……

Aizaŭa — そう云われて見るとその株な気もしますが記録がはつきり残つて居るかどうかが解らないので何とも云われませんがやかましく考へないと何とも無いのですけれども Esperanto が今後だんだん盛んになつて来ると又向題になつて来ると思いますが……。いずれ将来問題が起つた場合は別に開く株にしてもよいと思ひます。

Prezidanto — 来年度から大会の主催者はHELであると云う事に致します。

Takahaši — わかりました。なお一層精を出してやる事に致します。

Prezidanto — その他なにか御意見御希望はありますか？

Arima — 昨年向題になつた Esperanto の学校教員の向題について報告して下さい。

Niŝisato — 私自身エスペラントの教員免許を取り度いと思つて此の向題を昨年大会に出したわけですが、教職課程の中に実習の単位と云うのがありましてぜひこれを取らなければならないのですが、これが現状では不可能な訳です。この実習と云うのは、実際に教室に立つて教えることなんです。エスペラントをやつて居る学校がありませんので取ることが出来ないのです。

Sugaŭara — 外国語の免許状を併つて居れば、その単位さえ修めると二級免許状はくれたのですけれども、もう4年前前から、よつぱどの事情のない限り、例えば山岡へき地で教師が居ないと云う株な場合でないと思はないと云う事に成つて居ります。ですから、これからはちよつと不可能じゃないですか。

- ★ *Simpremento* 14.40
Simpremento は *prezidanto* から始まって右廻りに、ごくかたんに地名と
 名前のみを云われる方。又 *Esperanto* で 或は *japane* で 東参議のアズマ式ロ
 ーマ字の発表や NHK の木村氏は D-ro Zamenhof の 實説と約一時間半にわた
 って全員の紹介を終えた。
- ★ *Amuzaĵo* 16.10
 西里氏のギター独奏によつて映画「禁じられた遊び」よりナルシソ・イエバスの
Romance de Amur と他1曲。又函館の吉田氏の詩の朗読、KLEMENTIN
 や *Paŝante tra l'Herbar* を皆んなで合唱する真たのしい時間を送った。
- ★ *La Ĥoro de tagiĝo* 17.01
- ★ *Malfermo* 17.06
- ★ *Vesper manĝo* 18.00

第23回北海道工スプラント大会参加者名録

○印は不在参加

1.	吉原 工八郎	札幌市	28.	松本 華子	札幌市
2.	坂下 清一	〃	29.	木村 喜任治	札幌市
○3.	大川 捷治	小樽市	30.	高橋 達治	小樽市
4.	早川 昇	〃	31.	東 隆	札幌市
5.	アリマ ヨシハル	札幌市	32.	稲野 恵子	札幌市
6.	松尾 文大	江別市	33.	高橋 要一	〃
○7.	河野 友道	札幌市	34.	永田 四子	〃
8.	ゴト ヨシハル	〃	35.	由良 悦子	長沼町
9.	斉藤 逸代三	〃	36.	鈴木 正治	札幌市
○10.	畑山 紀	小樽市	37.	山本 昭二郎	小樽市
○11.	千葉 智代	札幌市	38.	滝 和美	札幌市
○12.	中 島 祥子	〃	39.	斎藤 圭司	厚田村
13.	江口 音吉	小樽市	40.	菅原 鉄雄	室蘭市
14.	前田 幸一	〃	41.	井上 一	函館市
15.	日置 左一	札幌市	42.	新田 為男	由仁町
16.	木村 富士子	〃	43.	林 里栄子	〃
○17.	高瀬 広輪	広馬村	44.	明石 道枝	〃
18.	塩谷 登	札幌市	45.	柳川 和子	〃
○19.	河内 希希	音更町	○46.	中沢 天暇	小樽市
○20.	西 志雄	札幌市	○47.	竹内 五男	東京都
21.	相沢 治雄	〃	○48.	川端 剛	札幌市
○22.	磯町 若二	〃	49.	飯谷 昭典	由仁町
23.	藤近 庄次郎	〃	50.	増田 泰子	札幌市
24.	平田 岩雄	室蘭市	○51.	上原郷 登茂	小樽市
25.	カモ セツコ	〃	○52.	池島 与三吉	北見市
26.	西里 耕彦	札幌市	53.	吉田 栄	函館市
27.	杉山 素	札幌市	○54.	小田島 栄	〃

- 55 伊藤 静 政 北見市
- 56 八木 隆 二 江別市
- 57 ヤマモト タエコ 札幌市
- 58 竹吉 正 廣 旭川市
- 59 和田 澄 子 札幌市
- 60 桐 庄 有 保 " "
- 61 三 橋 悦 子 " "
- 62 山 賀 勇 小樽市
- 63 斉藤 文 子 札幌市
- 64 児 玉 友 夫 " "
- 65 星 田 淳 苫小牧市
- 66 武 田 二 郎 岩見沢市
- 67 木 津 義 雄 旭川市

参加者都市別一覽

都市名	参加	不在参加	計
札幌市	23	11	34
小樽市	6	4	10
由仁町	5	0	5
室蘭市	3	0	3
函館市	1	2	3
江別市	1	1	2
旭川市	1	1	2
北見市	0	2	2
苫小牧市	1	0	1
岩見沢市	1	0	1
長沼町	1	0	1
厚田村	1	0	1
音更町	0	1	1
京 都	0	1	1
計	42	23	67

23 回大会々計報告

収入の部

繰越金	362
" (昨年度未収金入)	300
出席参加費 150 × 44人	6,600
欠席 " 100 × 23 (内未収5人)	1,800
晚サソ会費 200 × 26 (内未収1人)	5,000
寄附金 小樽 山賀 勇氏 1,000	3,550
札幌 吉原 正太郎氏 1,000	
函館 吉田 栄氏 550	
" 小田島 栄氏 500	
旭川 木津 義雄氏 500	
寄贈 小樽 山賀 勇氏 ビール	
	17,612

支出の部

会場費 (市民会館使用料)	1,700
茶 菜 代 50 × 44人	2,150
晚サソ会 200 × 26人	5,200
準備事務、通信費	2,186
記念図書展示会費用	1,750
記念写真代	1,125
報告書代 (レポート分担)	2,000
全上及厚葉送料	670
	16,781

差引翌年度に繰越 $17,612 - 16,781 = 831$

未収分 990円は入金次第繰越金に繰入れます。未収の方は会費と共にお拂込願います。

北海道工スペラント連盟役員名簿

(1959-8-23 改選)

委員長	坂下清一	札幌市北1条9 (北工電気KK社長)
事務局長	相沢治雄	札幌市南水東町7 (定鉄電車4座助役)
常任委員	アリマヨシハル	札幌市北24西9 (道庁発着改善部計画課長補佐)
	高橋要一	札幌市豊平5条西9丁目道警住宅933号 (北海道 ヒラノ札幌KK助幹)
	西里静彦	札幌市南16条西5丁目 (北大大学院学生)
委員	山賀勇	小樽市花園町東3の11 (山賀眼科医院長)
	高橋達治	小樽市桜町367 (小樽市海員学校教官)
	平田岩雄	室蘭市東町日鋼社宅東278 (日鋼社員)
	新田為男	夕張郡由仁町三川 (由仁町収入役)
	竹吉正広	旭川市7条9丁目右1号 (旭川郵便局)
	菅原鉄雄	室蘭市鞆西町246中村方 (教官)
	吉田栄	函館市舟見町43 (銀行員)
	星田淳	苫小牧市王子北光寮内 (王子社員)
	武田二郎	岩見沢市2条東二丁目
	松尾文夫	江別市栄町4江別製粉内 (江別製粉社員)

HEL 收支報告

残 (33-11-30) HEL 残 4854 + 大会残 362 + 報告書未払分 2000 = 7216

(収 入)

(支 出)

仮払日本大会費 4人入	600	博覧会券払	520
HEL 会費	2,350	レオントード印刷 (検閲料2,000)	3,275
旧号売却	180	全送料、通信七	1,080
刊 息	68	振替口座手数料	15
		仮払日本大会七 1人	200
	<u>3,198</u>		<u>5,090</u>

残 4854 + 収入 3,198 - 支出 5,090 = 繰越 2962

振替口座残 (34-12-8) HEL 残 2962 + 大会残 831 + 大会未払 3755 = 7588

HEL 会費内訳

氏 名	金 額
カモセツコ	200
タカハシタエコ	200
アリマヨシハル	300
木村喜王治	200
武田二郎	200
田辺 至	50
東 隆	1,000
児玉玄夫	200
計	2,350

LEONTODO

N-ro 23・24

編集発行人 北海道エスペラント連盟
 札幌市北1条東9丁目 坂下潤一方
 発行日 1960. 1. 31.
 会 費 年額 200円 (HEL会費) 年4回発行

雑記

☆ザメンボフ百年委員会調査発表によれば、北海道に於ける継続25年のエスペランティストは下記の通り（順不同）13名でした。

坂下清一、橋本正太郎、高田三郎、相沢治雄（以上札幌）山賀勇、岡坂圭治、江口吉吉（以上小樽）吉田榮、小田為康（以上函館）、高瀬正雄（旭川）、三田智大（士別）、岡本康雄（砂川）、新田為男（由仁）

（J.E.I.に会費を払っていない人で調査の対象にならなかった人がまだ数名は算入されますが）

☆西里君の「ぐずれ怒るの抱負」という原稿は恰度前号が出たすぐ後に着いたもので遅く早あそたまっていたのです。1月/日とあるのは1959年のことでまことに申し訳ないことです。尚、大会のアロトコーロに地方会の報告は記事後送となっております。来ないところもあります。7日毎に出る週刊雑誌の読者は高亮といふ乍らよくやつてるもんだと感心させられます。

☆オマ6回日本エスペラント大会に北海道から参加したのは、35人でした。

（札幌5、小樽9、釧路5、函館3、由仁1、登別1、下川1）、欠席参加ではあるが、年々参加者が増加することは誠に可喜のことです。

☆レオントードを年4回発行する件で常任委員が頭をなやましています。毎度原稿と会費のお願が予定通りゆかぬことは困ったことです。今一考えてみました。原稿がどんどん集って会費が全然集らなかつたら？ 特志版にお願しても、2度は出せるでしょうか、継続できるでしょうか、若し会費がどんどん集って、原稿が全然集らなかつたら？ 毎度同じ人ばかり投稿をお願できないでしょうし、今のように原稿も会費も集らない方が言いわけし易いというもの。こんな考えは良くないですね。

まず発行費用は何とでもしますから、原稿をどしどし送って下さい。

☆12月に引きついで大会の記録も年末多忙で、やつと1月2日と3日、2日掛りで編集して会計報告も出し、印刷にまわせるようになり、戻つしました。今年は年頭から整理がついたので、おくれはせながら皆様におわびができました。

☆あらためて Felican Novjaron!

（坂下記）